つるさき

発行所
鶴崎神社
〒701-0304
早島町早島2220
TEL 482-0097
FAX 697-6067
URL
http://turusaki2.web.fc2.com/

平成30年い草のジャンボ干支（イヌ）

日本人の二重信仰

当社の氏子世帯は二、八〇〇戸余りになりますが、殆どの家は仏教を信仰し、家庭の宗教として古来から根付いております。

従って、家の中には仏壇が置かれ、祖先の霊が祀られていますが、片や同じ家の中に神棚が設けられ天照大御神を始め氏神様等のお神札がお祀りされています。

私たち日本人はこのような状況を見ても何も違和感がありませんが、外国人から見ると理解に苦しむようです。通常、宗教はその家、その人に一つですが日本では、同じ家の中に仏教の仏壇と神道の神棚がある事で二つの宗教を同時に信仰する二重信仰と映るのです。

しかし、日本人はその事を異常とは思っていません。何故なら、神社へ参拝する事や家庭に神棚を設け神社の神札を祀る事を宗教とは思っていないからです。

神社は閉門などがなく、一年三六五日、一日二十四時間、何時でも何回でも自由に参拝でき、日々の願いや、新年の家内安全などを祈念していますが、参拝者は宗教と思っている人はいないと思います。神社は古来から氏子の皆様の心の拠り所となっている事は、国が昭和二十年、GHQに対し「神社は国家、国民道徳の淵源をなすものであり、宗教として取り扱われるべきものではない。」と説明交渉を行っている事からも窺（うかが）い知れます。

安原伝兵衛物語 10

考えたって思い当たる節はない。悶々として格子の外を見つめて過ごした。牢舎の外に竹矢来に固まれた砂場があった。竹は伐られて間がないのか青くて鮮やかで唯一、伝兵衛の目を慰めてくれた。砂場に夕闇がしのび寄ると、盛相飯が運ばれてきた。朝から何ひとつ口にしていなかった。でも食欲は全くなかった。臥床は堅い床、溜息をつき寝返りを打った。明け方になって一瞬うとうとしたらしい。夢か現か黄昏の世界に迷い込んでしまった。一種幽明の境地だった。

一点の明かりが近づき、大きな光の環となり、あろうことか「り水観音」の顔が浮かんだ。涼やかな風鈴の音と思われる声で「伝兵衛よ、三次の鳳泉寺で交わした約束を忘れたのですか。悩む時、苦しむ時、ひたすら祈るという約束を…。まあ今回はゆるしてあげます。明日、砂場には多数の人が集まります。あなたのたって会いたい方の名前を呼びなさい。そうすれば牢舎から出られるでしょう」と告げると光輪とお姿は消えた。伝兵衛は夢から醒め、まんじりともしないで夜を明かした。

砂場を見ると、人影ひとつない。あの夢は何だったのだろう。すっかり弱気になって藁にもすがりたい気持ちが幻影を見たのかなと思った。

朝晩二回の盛相飯が差し入れられる。少し箸をつけたけど不味い飯だ。喉に流し込むように食べていると、砂場が騒がしくなった。蔵泉寺口留番所の役人の指図で、人足が二人、地面を掘り始めた。掘り終わる頃から竹矢来の周りに続々と人が集まってきた。

（あれっ、り水観音さんのお告げ通りじゃ）

夢の続きが始まった気がして身顫いした。

人出が増えて竹矢来の中は見えなくなった。やがて縄付きの罪人が番士たちに引き立てられ竹矢来の中へ消えた。

野次馬が一瞬静まると濡れ手拭いを板にたたきつけたような音がした。と同時に一斉に喊声があがった。斬首刑が執行されたのだ。

（下手したら、明日は我身じゃ）

全身を恐怖がつらぬいた。

（そうや、お告げはたって会いたい人の名前を呼べと言いんさったんじゃ）

「錦織弥太夫さん、弥太夫さんやぃ！」

もう気が狂ったように野次馬の群れに向かって連呼した。何事かと振り返った人々も自分には関係ないと判ると立ち去って行く。そんな中からひとりの男が牢舎へ向かって来た。

（錦織弥太夫さんじゃ）

「早島の安原伝兵衛ですがの、馬子の伝兵衛ですけん助けてつかあさい」

格子を強く握りしめて叫んだ。

数刻後、牢舎を後にする二人の姿があった。

錦織間歩（坑道）に向かう道すがら、伝兵衛は命の恩人は、り水観音だと確信した。

弥太夫がどうして野次馬の中から見つけ出したのか不思議がった。

伝兵衛は説明できず苦笑した。

「お前さんすんでのところでこれじゃったのう」と、弥太夫は手刀で首を叩いて笑った。

伝兵衛はその通りだと思った。

錦織間歩は、仙の山にある七谷のひとつ、昆布山谷にあった。間歩の掘子（鉱夫）や負子（運搬夫）の殆どが弥太夫と同郷の出雲出身者だった。

「この銀山で最初に掘り当てたのは儂と同郷の三島清右衛門や尾紅孫右衛門だけんね。尾紅孫右衛門と妻のおたかは殺されてしまったがね。でも今では妻山神さんと呼ばれる神さまだけんね。あすこに見えるだろが、佐毘売山神社だわね。儂らはその末商だと思っちょるけんね。お前さんもその積りでがんばってごしない」

錦織弥太夫には山師としての誇りがあった。錦織間歩を弥太夫の代理として差配する孫一は気さくな人柄だ。出雲の者ばかりの中に伝兵衛が入ったのだが、少しもわけへだてすることなく接してくれた。

「間歩の仕事は短気者ではできんけんな。先は長いだけん、見よう見真似で覚えて根気よくやることだわね」と、教えてくれた。

しめ縄づくり、元旦餅つき

総代20人活躍、ご奉仕の幅広げる

鶴崎神社の宮総代は早島、豊洲、帯江（一部）の氏子社中に20人いて、氏子参加行事の連絡・調整、春・夏・秋祭りの運営などに協力、ご奉仕しています。さらに近年では迎春のしめ縄づくりと元旦餅つきを恒例化、ご奉仕の幅を広げています。

元旦餅つきは安原昇総代長（78）＝塩津＝が就任した平成17年、しめ縄づくりは新拝殿の完成した同21年に始めました。

お正月の迫った同29年12月17日には、鶴崎・八幡両拝殿正面の向拝（こうはい）に飾るしめ縄づくりをしました。

材料の藁は安原さんが準備。農業の機械化で手に入れにくい時代ですが、安原さんは青い藁を確保するため稲穂の出る前の8月20日ごろ早刈りをして天日乾燥させます。

「（水田の）約15平方㍍を犠牲にするんで申し訳ないんですが…」と太田浩司宮司（57）は気をもみます。

しめ縄の太い部分を力を込めて作る神社総代

向拝の幅約3㍍に合わせ、鶴崎用のしめ縄を手分けして時計と逆方向になる左縄で三つ編みを組み進めます。徐々に藁の量を増やしながら、真ん中あたりにくると、「（藁を）もっと増やさんとかっこよく太くならんでえ」という声がかかります。同じように八幡用にも取り組みました。

藁を継ぎ足し太くしていく難しさ、それに伴う腕力が必要ですが、一番太い部分の直径で鶴崎用18㌢、八幡用15㌢の青々としたしめ縄に仕上がりました。

横綱の化粧廻しをはるかに超える立派な出来です。用意した青竹に細縄で固定し、みんなで抱えて運び向拝上部に設置、1年ぶりに新調しました。

しめ縄づくりは例年、ベテラン松尾隆吉さん（82）＝元副総代長、西田＝に指導してもらっています。

同30年元旦には朝から餅つきをしました。全員が青い法被を着て2つの臼を準備。数人が交代で杵を振るい、つき上がった餅を大勢が板の上でもみ上げて半紙に次々くるみます。境内いっぱいに押し寄せる初詣客に、「おめでとうございます」と言いながら配ります。

当初から毎年手伝う、秋祭りの鬼でおなじみの早島・百鬼会会長・佐藤智広さん（58）＝長津＝や、「僕にもつかせて」という飛び入り参加も多数あり、にぎやかに繰り広げました。

昼までに1俵（4斗）20臼を3時間がかりでつき上げ、推定1万人とされる初詣客に配り終えました。

総代に就任した3年前から毎年杵を振るう八木二郎さん（68）＝高須賀＝は「子供の時から慣れてるとはいえ次の日、けっこう体が痛くなりますよ。いや、いい運動です」と笑いながら話していました。

総代さんは頑張っています！

餅つきを始めてから初詣客の出足が早くなりました。太田宮司は「それ以前は午前11時前ごろからでしたが、今では9時前には駐車場がいっぱいになります。お餅効果ですかね、総代さんのおかげで嬉しい異変です」と、喜んでいます。（取材／鶴崎神社総代・佐藤豊行）

鶴崎神社の正月ムードを盛り上げる元旦餅つき

出来上がったしめ縄を鶴崎神社の拝殿に設置

参集殿建設計画

社殿建設から今年で十年を迎え、予てから参拝者増により手狭となっている社務所と、築後一二〇年を越え各所の破損が著しい職舎と、建設を要望されている参拝者便所の三要件を解決すべく、旧社務所西側に必要最小限の参集殿建設を計画しております。

役員会（4月8日）、及び総代会（4月15日）において、建設が承認されましたが、営繕積立金を原資として氏子の皆様の負担を最小限に留めるべく、検討を重ねております。

詳細が決定致しましたら、本年中を目処に、趣意書をお配りして、ご説明とご協力をお願い致したく存じますので、何卒宜しくお願い致します。

総代の異動（平成30年4月15日付）

前潟	
退任	新任
亀山　秀明	佐藤　政文
早島町前潟六二〇―一〇	早島町前潟一一〇

責任役員・監事の補充（平成30年4月15日付）

責任役員	寺山　俊雄
監事	渡辺　利明

社殿の木製模型奉納

1/50で社殿を忠実に再現

昨年二月、和気神社（和気郡和気町藤野）名誉宮司小森成彦氏から「神社の模型を作成して奉納したいという人がいるので紹介したい」との連絡を受けた。

その方は赤磐市桜が丘西に在住の梅野克樹氏で、趣味の模型作りが高じ、たまたま参拝した和気神社に惹かれ、作成を申し出たのがきっかけで、平成二十七年に完成し奉納した。

その後、神社の造形美に心酔し二作目の神社を小森氏に相談したところ、建築様式が複雑で見応えのある当社を推薦されたのである。

三月に梅野氏と小森氏が来社し、神社の見学、写真撮影を行い、製作に取りかかった。

建築設計図面では拾い切れない箇所は、その都度足を運び実寸を確認する念の入れようであった。

斯くして、十一月二十三日、実に九ヶ月を費やして完成した模型が展示台と共に拝殿へ運び込まれ、新穀感謝祭終了後、模型奉納奉告祭を執行し、総代や幹事の見守る中、除幕が行われ披露された。

奉納された模型は、幅七五cm、奥行九五cm、高さ三五cmで、ガラスのケースに入れられており、部材は全て端材から削りだしたもので、屋根の銅板や格子窓など緻密な作業を始め社殿の周辺部まで忠実に再現されているので、普段は見ることが出来ない本殿と拝殿の位置関係や社殿高低差が見て取れる。

新年からは常時見学出来るように拝殿石畳部分に設置している。

梅野克樹氏から奉納された社殿の模型

祭事暦

五月十九日（土）［午後七時］
八幡神社春季大祭
（露店あり）

五月二十日（日）［午前十時］
鶴崎神社春季大祭
【供膳祭】

七月三十日（月）［午後五時］
夏越祭【輪くぐり祭】
（露店あり）

毎月一日（午前九時）月次祭

諸祈祷・出張祭の案内

◆初宮詣・交通安全・厄除・安産・家内安全・病気平癒その他
◆地鎮祭・上棟祭・家遷清祓・宅神祭・結婚式・神葬祭等

ご希望の方は前もってご連絡下さい。

祈祷／出張祭は
予約
をお願いします。
482-0097